

## 学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和5年7月28日（金） 17：30～18：30  
場 所：龍馬情報ビジネス&フード専門学校 テクノホール  
参加者：福永龍雄委員、加藤稔委員、坂本昌二委員、安井裕治委員、  
中川校長、西成副校長、鳴瀧部長、松下  
欠席者：森田理香委員、岩郷雄介委員、矢野太久委員

### 《議事》

開会宣言…西成副校長

本会開会宣言があり、本会を定刻に開会した。

学校長挨拶…中川校長

昨年度の学校運営の報告 コロナの影響があり、9月くらいまでは感染者が非常に多く、学級閉鎖になったが、10月以降は落ち着いてきた。久しぶりに学園祭を実施した。各クラスでは校外への活動もできた。年間を通して計画していた行事などは実施できた。新しい科目を設定した学科やコロナ禍で各学科が目標としている検定制度が変わったこともあり、新しい検定への対応などが昨年度は多かった。企業との合同企画を実施して、教育活動の充実も昨今の目標にしていたので、実りつつあった1年となった。就職については、例年より悪い結果になった。今年度は、入学生200名、在籍者380名でスタートとなった。県内の専門学校と比べると、本校が県内では一番多い在籍者数となった。今年度の目標は、新任教員も含めて学生指導のレベルアップ、ICTを活用した授業のレベルアップ、そして昨年同様、関連企業との連携強化も図ってきたい。教員のインターンシップの実施も取り組んでいく。

資料説明、令和4年度自己点検・評価報告…中川校長

「自己点検・評価」において、評価に変更があった7項目の変更理由、解決方法が項目毎に説明された。

- ・項目番号2-6 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか。シラバスは作成しているが、コマシラバスを作成していない。評価を下げた。評価4→3
- 2-11 結果に基づく研修を実施しているか。フィードバックについて十分にできていない。評価を下げた。評価5→4
- 2-12 結果に基づく授業観察を実施しているか。フィードバックについて十分にできていない。組織的な仕組みができていない。評価を下げた。評価5→3
- 2-14 その評価結果をもとに改善活動をしているか。改善レポートなども作成していないので、評価を下げた。評価5→3

- 3-3 図書室・図書コーナーなどがあるか。図書室はあるが、エビデンスが十分であるといえない。評価を下げた。評価5→4
- 4-1 学生の就職に関する目標を設定したか。評価を下げた。評価4→3
- 9-6 自己点検・評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証がされたか。組織的には出来ていない。評価を下げた。評価4→3

#### 討議・意見交換

安井委員…項目番号4-1、2-15

「学生の就職に関する目標を設定したか。」

(中川) →以前は、就職を担当する部署があり、就職部が3か月ごとの内定率を設定していたが、コロナ禍以降就職の先行きが見通せない時期があり、内定率を設定していない時期があった。その代わりに、担任がクラスの状況に応じて担任月報に目標値を設定している状況に変わっている。担任まかせにはなるが、クラスの状況に合わせた目標設定になっている。

「就職率と1年以内の離職率について」

(中川) →今春卒業生の就職率は95.4%。1年前が98.7%、2年前が96.8%。年度初めの目標は98%としている。離職率は企業から連絡があるのが、昨年度は2、3名だった。その他にもいると思うが、あまり言ってはこない。

加藤委員

「自己点検をやってきて効果はありますか。」

(中川) →根拠資料が必要なので、その作成が必要だった。

根拠資料がなければ評価を上げるのが難しい。項目ごとに学校としては出来ていると思っていても、列挙して項目を挙げて根拠資料を出すとなると、意外と資料がなくて口頭でやっていた。ガバナンスの観点からすると出来ていない。教務の内容としては、大きくレベルが上がったとは感じていない。

「評価項目の中に必要か必要ではないかと思うことはあるか」

(中川) →ある。評価項目をどのように決めたかと言うと、県外の大学を併設している専門学校を参考にした。

坂本委員

「オープンキャンパスを実施されているが、学校として取り組んでいるのでどこかに加筆して評価に繋げてはどうか。」

(中川) →学生支援の項目に入れられそうである。

(西成) →自己点検・評価項目にはないが、実際は参加人数などを把握していて、終わった後にはしっかりとフィードバックしている。

安井委員

「学校へ来ている企業求人数と今の学生の思考、学生がどういう企業を選んでいるか」

(西成) →求人数に関しては、昨年県内求人が157で、県外求人が333。今年も求人数は変わらない。学生の県内就職が全体では65%くらい、学科によって

は偏りがある。公務員学科はほとんど県内。情報系は7割くらい県外。

(鳴瀧) →専門性のある職種に就くのが7割か6割くらい。あと3割くらいは明確に決まらない学生が多い。担当教員としては、学んだことに近い企業を学生に斡旋していく。

(中川) →最近の学生は、給与とかはあまり言わない。休みが多いのを望む学生が多い。今の学生は欲がない。

「学科数に対する教員の人数と、教員への負担が多いように見受けられる。1学科に対して担任副担任2名体制か。」

(中川) →常勤は33名。教員も高齢化しているので、若年化を図りたい。1学科に対して基本的には副担任はいない。新任教員を副担任にしているが、場合によっては新任教員を担任にしてベテランを副担任にするケースもある。専門学校は、教員一人当たり学生数が何名などは決められていない。

(西成) →学科で1年、2年と2クラスあり、担任が各1名、それとサポートできる教員が学科内に1名構えられるような状況に整えられつつある。本校の教員の持ち時間数は若干多い。

「学生の男女比率はどれくらいか」

(中川) →2対1くらいで、男子が多い。女子が多い学科は、ブライダルと製菓、男子が多いのは情報系と公務員。

#### 坂本委員

「転科する学生はいるのか」

(西成) →今年度は、製菓製パン学科1年次を修了して、調理師学科に転科した学生がいる。1年次で製菓のカリキュラムを修了して製菓衛生師の受験資格が得られるので、調理師に転科して調理師の勉強をしながら、製菓衛生師の勉強もする。卒業すれば調理師免許が取得でき、製菓衛生師の国家試験を合格していれば製菓衛生師も取得できる。今年初めて、ダブルライセンスで取得する学生がいる。その他の学科は、転科する学生はいないが、情報システム学科からシステム工学科へ転科する学生はいる。

#### 福永委員

「図書室が依然なかったが、図書室をつくられたのか」

(中川) →新館を建設した際に作った。

「就職の目標はどのように立てているのか。」

(中川) →担任が、毎月目標を立てるようにしている。学校全体での目標設定は、コロナ禍の際に不透明になり、それ以降はなくなっている。

カリキュラムブックの説明…西成副校長

閉会宣言…西成副校長

本会閉会宣言があり、本会を閉会した。